

Comment

快適さと経済性の高さを
実感しています



●秋田県由利本荘市 Sさん宅

以前はメゾネットタイプのアパートで、ガスと電気を使う生活。それがオール電化のこの家に入居した秋口から、光熱費が約半分になったのには驚きました。暖房は灯油ストーブでしたから、蓄熱式電気暖房器だと暖房費がどのくらいになるのか、この冬が楽しみです。それに、悩みの種だった結露がほとんどなくなったので、とても助かっています。

暮らしやすさを考えてオール電化にしましたが、思っていた以上に使いやすく便利だったのがIHクッキングヒーター。ハイパワーでお湯が早く沸くのをはじめ、魚が両面で焼けるグリルは本当に重宝しています。また、天板がフラットだからお掃除がラクで、揚げ物をする回数が以前よりも増えました。油煙で汚れることもないので、キッチンをいつも清潔・きれいにしているのがいいですね。



コンパクトながら空間の広がりを感じるリビング・ダイニング。2階へ暖気を上げるため、吹き抜けと階段の位置を考慮したそう。



6

- 1.外壁は地元産の秋田スギ。年数を経ると、より木目が美しく浮き上がってくる。
- 2.リビングの天井を吹き抜けにすることで、1階の暖気を2階へ上げるようにしている。
- 3.天井材の秋田スギは秋田県から寄贈されたもの。地場産の木材を推奨する制度として、申請者に内装材の一部がプレゼントされるのだという。
- 4.奥さん一番のお気に入り、IHクッキングヒーター。「便利で快適」がすぐに実感できます。
- 5.天井高を利用してロフトを設けた2階の子どもの部屋。ロフトがあることで部屋の表情が豊かに。
- 6.洗面脱衣室。給湯器も熱源の一つと考え、あえて室内に設置した。



5



4



3



●●秋田県由利本荘市・Sさん宅●●

地場の秋田スギをふんだんに使って より暖房効率のよい家づくりを



2



1

IHクッキングヒーター

炎がないので安心して使え、空気も汚しません。熱伝導率が良く、調理時間が短縮できるのも魅力です。フラットなガラス天板で、手入れが簡単。人気の高い調理機器です。



「特にIHクッキングヒーターは、その安全性・安全性を知ると、年配の方ほど積極的に導入しています。部屋の空気を汚さないことでもお勧めですね。」

「ランニングコストを考えるとオール電化にする、という人は多いと思います。同時に室内の暖房機器を少なくできれば、インシャルコストも下げられ、オール電化のメリットを生かすことができます。そのための高断熱・高気密住宅なのですから。」

「また志村さんは、住宅そのものの性能向上と共に「設備機器の性能も充実してきた」と実感しています。」

「特にIHクッキングヒーターは、その安全性・安全性を知ると、年配の方ほど積極的に導入しています。部屋の空気を汚さないことでもお勧めですね。」

「最近の高断熱・高気密の住まいづくりでは、よく『冬は家のどこでも暖かく温度差がないように』という声を聞きます。でも私は、全館を同じ温度に保つのではない、ある程度の温度差があってもよい、という考え方。これは、室内が暑すぎて薄着になればなるほど、寒い戸外へ出て行くのが嫌になってしまうのではない、という懸念を感じるからです」と志村さん。

「寒さの厳しい地域であればあるほど、暖かく暮らせる家は必須のもの。でも、そこで半袖で過ごせるほどの暖かさは必要だろうか。そんな疑問からはじまった志村さんの家づくりは、「四季の移ろいが感じられて、なお『寒くない』住まい」に至ります。」

「三ランニングコストを考えるとオール電化にする、という人は多いと思います。同時に室内の暖房機器を少なくできれば、インシャルコストも下げられ、オール電化のメリットを生かすことができます。そのための高断熱・高気密住宅なのですから。」

「秋田県では、地場産の木材を使った循環型の住宅づくりを推奨しています。ですから当社でも、できるだけ秋田スギを利用した住まいにこだわってきました。在来工法の場合は、特に人材を育成するため、技術を伝えることも重要で、それが循環型の住宅づくり、ひいては循環型の社会づくりにもつながることです」と語るのは、同社3代目にあたる専務取締役の志村定弘さん。



志村建設株式会社 志村 定弘氏

地域の暮らしを考慮したプランで コスト低減住宅を実現

日本海にほど近いという土地柄、北国としては積雪はそれほど多くないものの、風が強いという特性を持つ由利本荘市。ここで大正9年から、特産の秋田スギを活用した家づくりをしてきたのが志村建設です。